

From Ibigawa S A B O

熊本地震被災地へ事務所から職員（TEC-FORCE隊員）を派遣

～4月16日に熊本地震発生、甚大な被害～

当事務所からも、危険渓流・急傾斜危険区域の調査に、「被災状況調査班」として、隊員4名を派遣(4/18～4/24)しました。余震が続く中、隊員たちは自らの安全に留意しながら、2次災害の発生が保全対象にあたる影響について、位置関係を確認しながら調査を行いました。

また、南阿蘇村役場内に設置の「土砂災害対策アドバイザー班」にも、隊員1名を派遣(4/27～5/3)し、阿蘇大橋崩落斜面の変状確認や村から依頼された箇所を、ドローン等による空撮と現地確認により崩落斜面の周辺状況調査を行いました。

帰還した隊員からは、『現地では流下した土砂により家屋被害があったが、砂防堰堤により被害が軽減されたと思われる事象もあり、改めて砂防事業の必要性を強く感じた』との共通の感想が出されました。



崩落斜面頭頂部 不安定土塊状況 (熊本県南阿蘇村)



《TEC-FORCE派遣隊員の感想》

- ・土石流危険渓流11渓流、急傾斜地崩壊危険箇所25箇所の調査を行い、調査結果を取りまとめ報告を行ってきました。貴重な経験ができました。(被災状況調査班：松原隊員)
- ・大規模災害発生時の初動体制には日頃からの関係機関との情報共有が大切だと再認識しました。(土砂災害対策アドバイザー班：山本隊員)



TEC-FORCE隊員出発式 (越美山系砂防事務所)

けんせつ小町が安全利用点検を実施！



平成28年4月18日(月)に越美山系砂防事務所のけんせつ小町(女性職員)が砂防施設の安全点検を行いました。

点検は、揖斐川上流域の揖斐川町、本巢市内の砂防施設のうち、人の利用が多いと想定される6箇所について女性ならではの目線・ママの目線で行い、お子様等が遊ぶ際に危険となる石張の損傷や、老朽化による一部看板の損傷等を確認しました。なお、今回確認した損傷箇所については、ゴールデンウィーク前に応急措置を完了しています。



点検状況(貝月谷溪流保全工)



点検後に集合写真 (鷲巣谷第1砂防堰堤)

土砂災害防止月間が始まります！

【6/1～6/30】

一瞬にして生命と財産を奪う土砂災害から身を守るため、日頃より防災意識を持つことが大切です。

- 危険を感じたら迷わず早めの避難！
- 土砂災害警戒情報に注意！
- がけ崩れに注意！
- あらかじめ避難場所を決めておきましょう。



伝統ある「いび祭り」開催！

5/4～5に揖斐川町本町にて行われました。

いび祭りは江戸時代中期から続く、三輪神社で行われる伝統あるお祭りです。三輪神社近くの本町通り付近の五つの各町が「車山(やま)」を持ち、毎年その中の1区が当番で子ども歌舞伎を奉納します。今年も天候もよく、約3万人の観光客を魅了しました。



立ち並ぶ車山(提供:揖斐川町)

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしております。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: cbr-ibigawasabo@mliit.go.jp

コラム：建設業のイメージアップについて

文：越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記

先日、建設企業幹部の方が、昨年の関東・東北豪雨（鬼怒川の決壊等）での水害の報道を指して、「自衛隊や消防・警察の救助活動ばかり報道されている。建設企業は他の誰よりも、最後まで現場に残って危険な作業をしているのに」と嘆かれています。

まったくそのとおりで、建設業界や建設関連業界はもっと正当に評価されるべきだと思います。

しかし目の前で、ヘリで吊り上げられて危機一髪難を逃れる映像を見せ付けられると、報道はどうしてもそちらを向いてしまいます。

このため地上で災害対応を行う建設業は活躍の割に報道されず、その結果として、一般の方々の中には、そもそも災害対応を建設業界が行っているということすら、よくわかっていない方もいるのが現状ではないでしょうか。

東日本大震災でも、関東・東北豪雨でも、映像の重要性を思い知らされました。このような災害時に、第一線で活動する建設企業の状況を映像に記録できれば、建設業界に対する国民のイメージは大きく変わると、多くの関係者が考えています。しかし、一刻を争う災害現場で、自衛隊のように映像の撮影に専念する人を用意するのは、現実的には困難です。

そこで、越美山系砂防事務所では、ウェアラブルカメラというものを導入してみました。これは、写真のようにヘルメットに取り付けるカメラで、災害対応に専念しながら撮影が可能で、数万円程度で入手が可能なものです。

普段は事務所の熟練職員のノウハウ伝承のため、現場での若手指導の状況などを記録していますが、いざ土砂災害が発生したときは、報道カメラが入れない第一線で活動する国土交通省職員や建設業従事者の姿を、世に出したいと考えています。きっと、ヘリ救助の映像に負けない衝撃を、世の中に与えられると思います。

その映像を見て、意気を感じた若者が建設業を志す将来を、想像している次第です。



ウェアラブルカメラ



H28熊本地震被災地へ派遣した越美砂防の土砂災害調査チームが、初めて実際の災害でウェアラブルカメラを使用しました。これからも、災害対策活動を記録したいと思います。

図-1 新卒者の企業選択ポイント

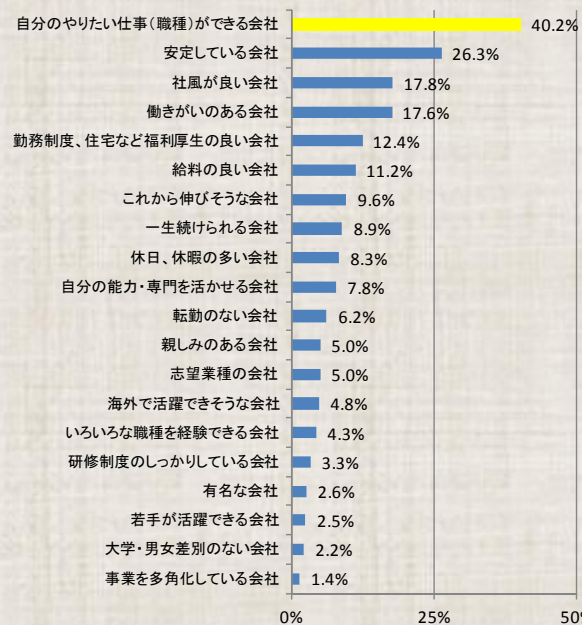


図-1 新卒者の企業選択のポイントは、圧倒的に「自分のやりたい仕事ができる会社」。建設業の仕事で「意気を感じさせる」ことは、建設業を志望する若者を増やすことでもあると思います。